

令和元年度 第1回 岡崎市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会

日 時 令和元年5月30日(木) 午後2時00分～午後2時50分  
場 所 岡崎市役所福祉会館3階 302号室  
出席委員 権会長、太田委員、若山委員、今泉委員、鈴木弘一委員、阿部委員、原田委員、鈴木育男委員 以上8名  
欠席委員 田中委員、鷺山委員 以上2名  
事務局 小河長寿課長、野澤介護保険課長、中根長寿課副課長、手島介護保険課副課長、藤野施策係長、木下予防係長、高倉地域支援係長、岡本地域包括ケア推進係長、中定事務員  
傍聴者 なし

- 1 開会
- 2 小河長寿課長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 議事
  - (1) 高齢者在宅福祉サービスの実施状況について・・・資料1
  - (2) 「高齢者のサービスガイド」について・・・・・・【冊子】
  - (3) その他

権会長 : それでは、早速、議事次第に基づきまして、会議を進めてまいりたいと思います。なお、本日の専門分科会を開くに当たりましては、委員の過半数が出席しなければならないと規定されていますが、本日の出席人数は8名でありますので、会議が成立していることを報告します。

また、この会議は、岡崎市附属機関等の会議の公開に関する要領等によりまして、傍聴、会議資料と議事録につきましては、公開としますので、よろしくお願ひします。

— 議事(1)(2) —

議事(1)「高齢者在宅福祉サービスの実施状況について」を高倉地域支援係長が説明  
議事(2)「高齢者のサービスガイド」について」を中定事務員が説明

【主な意見・質疑応答】

阿部委員：家具の転倒防止金具の取付けの件数について、平成28年度から平成29年度に大幅に減って30年度は増加しており、ねたきり高齢者見舞金も29年度

に下がって 30 年度に上がっています。何か大幅な要件の変更があったのでしょうか。

事務局：特に要件は変更していません。家具の転倒防止金具の取付けについては、おそらく、各地で地震等が多かったことにより、利用が増えたのだと感じています。

鈴木弘一委員：緊急通報装置の貸与について、平成 30 年度は実際に通報が何件くらいありましたか。

事務局：通報の回数は毎月約 500 回ほどです。また、業者のほうから設置されている方へ「お元気コール」という安否確認のための連絡を月に 1 回行っています。

鈴木弘一委員：専門業者から協力員へ支援要請を行うとありますが、協力員とはどういった方なのですか。民生委員さんとかでしょうか。

事務局：主にご家族の方になりますが、1 時間以内に駆けつけていただける方を 2 名選んで申請していただいています。

鈴木弘一委員：以前、民生委員に連絡があって、民生委員さんから総代の私に連絡があり、一緒に通報があった家に行ったことがありましたが、最近はそういったケースはないのでしょうか。

事務局：それは申請書に協力員として民生委員さんの名前を書かれたからだと思われます。

鈴木弘一委員：分かりました。協力員の指名によっては民生委員もあり得るということですね。

今泉委員：今は、なるべく他の人に知られたくないという人が多いのです。おむつ券のアンケートの結果はとても残念です。民生委員はおむつ券の配布をきっかけにお元気ですか、と声をかけていたのですが、来てほしくない、郵送のほうがよいという人が多い。そういった背景もあると思います。

若山委員：訪問理容サービスで助成券の枚数が示されていますが、人数は何人になりますか。

事務局：確認してご報告します。

若山委員：家具の転倒防止金具の取付けと見守り配食サービスですが、これは、対象者は高齢者だけではなく、障がい者も対象なのですね。予算はどこについていますか。障がい者なのか高齢者なのか。そして、障がい者と高齢者の比率はどのくらいですか。

事務局：確認してご報告します。

若山委員：緊急通報装置ですが、通報してから業者が来るまでどのくらい時間がかかりますか。

事務局：来るのは業者ではなく救急車か協力員になっていただいている方です。

若山委員：では、なぜ直接救急車を呼ばないのですか。直接ではなく、一回、業者を介するのはなぜでしょうか。

事務局：ボタンを押すと業者と通話できるようになりますので、そこで業者が状況を聞いて緊急性が高いのか判断をします。通報があっても何も応答がない場合は救急車を呼びます。

若山委員：緊急性がない通報も多いのですか。毎月約 500 件ある通報のうち、救急要請したのは何件ですか。

事務局：以前は、消防署に直接つながっていました。おそらく、通報があっても救急搬送が必要なケースがそれほど多くなかったため、現在の方法に変わったのだと思います。

若山委員：そうですね。だから、通報件数に対して救急要請したのは何件かをお聞きしました。また調べておいてください。

若山委員：おむつ券のアンケートについてですが、「良くない」と答えた人が 3.9%ですが、その理由は何ですか。

事務局：直接聞き取りをしておらず、理由は確認していません。

若山委員：何が良くないかを解析していかないと、この統計をとった意味がないと思います。市の調査は数字だけにとって理由が把握できていないものが多いです。それでは先につながりません。

原田委員：おむつ券は 1 年前に変わったのですが、実際におむつ券を使っていますので利用者として意見を述べさせていただきます。いろいろな理由で変わったのですが、やはり、変わって残念に思っています。以前は、民生委員さんが安否確認をしてくれていろいろお話ができてよかったですし、券も 1000 円券だったのが 3000 円券になって細かく買えなくなってしまいました。寝具の貸し出しも利用していますが、こちらは、毎月 1 回来てくれる方が「お元気ですか」などと声をかけていただけて、とても良い感じで利用させていただいています。

権会長：アンケートにも 1000 円単位になったことについての意見があったと先ほど報告にありました。

事務局：そういった意見もございますので、利用者の立場に立って検討していきたいと思います。

権会長：アンケートで購入できるおむつの種類が少ないという意見もありました。

原田委員：大手ドラッグストアは安くて種類も多いのですがおむつ券が使用できません。だから、おむつ券が使用できる指定された店舗で購入するのですが、小さい薬局なので扱っている種類が少ないのです。

権会長：その辺も運用の中で検討いただきたいと思います。

事務局：そういった御意見があることは承知していますが、事業者さんの協力で成り立っている制度であり、その辺りの制限があります。

若山委員：大手ではなく地域の商店で購入してもらいたいという意図もあるのですか。

事務局：非常に難しい問題で、地域の商店を守るという市の役目もありますが、大手ドラッグストアで安く大量に買いたいというのが市民目線であることも分かっています。

原田委員：地域の店に買いに行くと「まだ元気ですか」などといつも声をかけてくれて、その点では安心して利用させてもらっています。スーパーでは店員さんも変わるのでそれはないと思います。

太田委員：おむつ券は、薬業協同組合という昔からある薬屋さんの会が扱っています。現在、街の薬屋さんは大手のドラッグストアにつぶされて軒数が減っている状況ですが、今日、いろいろ意見を聞いて、やはり、「声かけ」という言葉がキーワードだと思いました。「まちかど介護相談薬局」ですとか、地域包括の担当を各地区で割り当てるなど、薬局もこうした位置づけをしています。単におむつを販売するだけではなく、困りごとがないかなど、つなげる役割を出していけば、より有効になるのではとお話を伺っていて感じましたので、持ち帰って薬業協同組合に伝えたいと思います。

原田委員：ぜひお願いします。話を聞いてもらって介護のストレスを発散させてもらっています。

鈴木育男委員：私に関わっているのは更生保護の関係ですが、今日、話をお聞きしている中で、やはり、人と人との関わりというものが一番大事なことであると感じました。おむつ券ひとつとっても難しい問題ですが、地域の薬局での人との関わりなど、様々な意見をふまえて市として考えていただけると岡崎市もさらに良い市になると思います。施設から出所した人は岡崎に住みたいという人が多いです。岡崎市の人口は増えており、市の財政も難しくなっていくと思いますが、さらに住みよくするために上手にやっていただきたいと思います。やはり、人と人の関わりが大事だと思います。

今泉委員：先日の川崎市での事件を見て、以前、家庭の中の状況がそっくりの相談を受けたことを思い出しました。家の中まで見えないけど大変なことが結構起きているだと感じました。

権会長：昨年度から現在までの流れを考えたとき、例えば、おむつ券の配布する方式を変えたことについて、行政が一方的に進めていくのではなく、当事者である利用者の方に不都合が生じているのか、改善されたと感じているのか、フォローアップをしてくれたことは評価したいと思います。もう一步、欲を言えば、出てきた意見をきめ細やかに さらに分析していく、それには、アンケートの取り方の工夫も必要ですが、なるべく生の声を反映できる取組みをお願いしたいと思います。また、人数などの実態を示す具体的なデータをもっと示してってもらいたいと思います。市民にもフィードバックしていくことで、岡崎の行政はきめ細やかに対応してくれるという評価になると思

います。

余談ですが、緊急通報について、一旦業者に通報するというのは、有効な方法ではないかと思えます。高齢者に限ったことではないですが、救急車を呼ぶかどうかはすごく迷うものです。自分の経験ですが、結局、自分でタクシーで病院に行ったのですが、救急車を呼ぶか最後まで迷ったことがあります。

原田委員：今年、おばあさんを救急車で搬送しましたが、まず、訪問介護の看護師さんに来てもらって、看護師さんが先生に相談して、救急車を呼んだほうがよいねということになって呼びました。そんなことで呼んだのかと言われるかもしれない思い、自分で直接呼ぶのは躊躇しました。

若山委員：私は迷ったら呼んだほうが良いと思えます。相談している間に悪化してしまったケースもあります。心筋梗塞などはどんどん救命率が下がっていきま。一部のタクシー代わりに使う人がいるのが問題ですが、搬送して何もなかったらそれはそれでよいのですから、迷ったら呼べばよいと思えます。

#### — 議事(3)—

議事(3)「その他」介護保険に関する調査の実施について藤野施策係長が説明

事務局：令和2年度は第8期の地域包括ケア計画（高齢者福祉計画・介護保険事業計画）の策定の年度に当たります。そのため、介護保険等に関する意識調査を本年度11月頃に郵送によるアンケート形式で行います。結果等がまとまりましたら、本分科会でも報告させていただきます。また、次年度の計画策定にあたっては、本分科会にて審議していただくこととなりますので、よろしくお願いたします。

（意見・質疑応答なし）

権会長：それでは、以上をもちまして、本日予定をしました議事は、すべて終了しました。議事進行に御協力いただきまして、誠にありがとうございました。これからの進行は事務局にお返ししたいと思います。

事務局：権会長におかれましては、議事進行、ありがとうございました。また、委員の皆様方におかれましても、お忙しい中、御審議をいただきまして、ありがとうございました。これをもちまして、令和元年度第1回岡崎市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会を終了いたします。